

次官

第十七門
80

二十一年八月十二日 内務代官 通商局

公信第二四號

受第の五五〇

在當港貿易ノ重要ナル砂金トモ金布トモ
 我商人ノ取引ハ漸次衰兆ヲ現シ其商權ヲ
 支那商人奪ヒテラントス事ノ美の通々及脚
 船迄亦めり也此等ノ結果由り以テ東亞
 日本商專賣ノ有様ナリ難信モ亦大ニ其
 販運ヲ支那ニ奪ヒ其代陶器漆器ノ如キモ
 止メ相解ノ好評ヲ失ヒ販運ノ滞ヲセントス
 起ル及僅ノ自手難貨高價ヲ呼集メ方事案
 及原因等ヲ取調ルハ皆テ直ニ我商權
 入テ難貨ニ其價廉使テモ粗悪ノ其多
 價々人時中一以テ其用ニ高セザルニ至ル
 二缺ノ如キハ丹邊ニ相應銅鐵ヲ用ルルカ物
 在朝鮮
 日本領事館

此之固モ使用スルハ其ノ裁制ノ力ヲ失ヒ左廢
 物ナリ然レども其ノ鑄造方ノ直シテ人
 其ノ鋼底甚ク薄シ其ノ鑄造ノ好細
 有ニ彫像ヲ生シテ人部ヲ致シ以テ其海
 方敷トス者杯有ハテ一二回使用ノ後
 其底層ノ用ニ供ス可ラス陶器ト至ラテモ或
 以厚シ減シ長ク流メ或ハ其ノ中ニ入ル
 燒方ノ不交方カ場メ運中ノ容易
 破壊シ又漆器モ亦ノ製法ノ堅固ナラズカ
 其利別表ラ来ニラ失ヒス其ノ粗悪亦
 贗造トモ知ルル物也其ノ如ク入ルル
 我商販運スル難貨ハ也其ノ如ク入ルル
 後ニ此等支那商權ヲ失テ其ノ商權ヲ振
 起スル

3-0137

貨物仕入の媒介の事、今社が創設して仕入
 係打つた多クは、拙メテ善良なる貨物ヲ扱
 入シ、一ノ節多ク便利ヲ得リ、六粗悪品ノ仕入
 ヲ防制シ、又其層社ニ於テ取扱ヒスル貨物ニ
 一様ノ記号ヲ附シ、以テ他社ニ運別スル事ヲ禁
 行セシムル事ヲ計畫中ニ有ラ、其旨ニ於テ本
 セ、此等諸商ノ同意ヲ得テ、我商業恢復
 決議ノ在、後議ノ約三日、前委員四名下
 仁、此ノ旨キ、其際右規約及結社之唱者ヨリ
 其趣ヲ申出テ、賛成ヲ求メ、極メテ同意ヲ
 表シ、候趣ニ有ラ、因テ右規約及結社、近日
 必ズ成ル事ト信ス、其旨ニ於テ、其旨ニ
 成ル事ト信ス、其旨ニ於テ、其旨ニ

在朝新聞 仁川港

日本領事館

去、此粗悪品ヲ當知ル、故入シ我商業ニ衰
 退シ、未レトスルモノ、在、當、此、商、業、者、不、得、
 意ニ、其、事、キ、ハ、俄、有、ラ、ル、事、ナ、リ、前、此、中、年、針
 鋸、及、周、際、器、ノ、製、造、好、送、ス、ル、在、本、邦、製
 造、者、及、同、屋、モ、亦、其、罪、ヲ、行、ス、ル、事、可、ラ、ズ、即、チ、在
 當、此、商、業、者、キ、申、出、シ、テ、ハ、信、任、シ、以、テ、初、善
 好、大、貨、物、ヲ、仕、送、ル、候、ハ、ハ、協、定、ナ、リ、テ、ハ、其、趣
 ヲ、仕、入、主、ニ、申、送、リ、仕、送、ラ、ル、候、地、ニ、商、業、前、途、ノ
 妨、碍、ヲ、杜、絶、セ、サ、ル、事、ナ、リ、シ、カ、ル、候、ハ、無、事、
 ニ、テ、粗、悪、品、ノ、仕、送、リ、仕、入、主、ニ、テ、其、旨、ニ、於、テ、
 爲、ラ、ル、場、合、也、キ、カ、ラ、ズ、去、レ、在、當、此、商、業、者、ノ、
 在、事、ノ、規、約、ヲ、結、合、セ、ル、事、共、ニ、一、方、ノ、利、ヲ、求、
 善、ノ、粗、悪、品、製、造、者、及、同、屋、ニ、向、テ、注、意

此三ヶ所此規約も亦充分ニ其效ヲ表セザル
俄ニ紛争有ルニ由キ在テ故紙州廣州府前各地
ノ鉄器陶器漆器ノ製造者及同産ニ其利
宜ク得失ヲ示シ給フ事ニ探其由上布以テ
方即取計 貴方ノ如ク是ノ事ヲ
貴申上ノ由依テ也

明治三十年一月一日
在任 領事 佐木文美

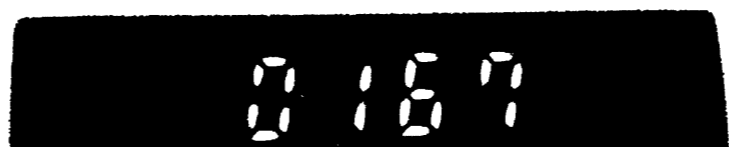


外務大臣子爵本園嘉敬

在任 領事館

日本領事館

3-0137



参考

○次々載スル所ノ取送廿一年八月八日付機密第廿四号
在金山室田領事ヨリノ来書中ニ云ル同年六月廿日付
機密送第廿九号及同年七月廿日付機密
第廿二号来書ハ右記保保機密掛所轄之
朝鮮ニ於テ貿易権回復一件ト題スル書冊ニ
於テ先ルベシ

編者

外務省

3-0137



9/93

特通第
類

二二六

廿一年八月五日接獲 内藤代傳

通商局

予、三英國の領事、其の事務、
のり、

機密第二十四號

近來當國、於本邦、貿易、清商、
 為之、壓迫、傾向、呈シタル、旨、各館
 ヲリ、追々、報告、有之、多ク、付テ、評國、貿易、
 関心、回復、策、起、案、相成、依テ、評、趣、意、
 ニ、據リ、本港、在、留、有、志、者、ヲ、奨、励、可、致、
 旨、本年、六月、一日、付、機密、第二十九、六、號、ヲ、
 以テ、出、示、有之、事、ヲ、知、者、當、地、重、シ、タル、
 貿易、商、人、會、議、所、ヲ、集、メ、及、懇、諭、置、キ、
 且、當、港、商、人、豫、テ、右、邊、ニ、注、意、シ、專、ラ、
 豫、防、策、ヲ、講、シ、度、去、月、六、日、附、機密、第、
 二、十、二、號、ヲ、以テ、及、脚、ヲ、買、テ、處、其、後、本、
 港、商、人、ハ、愈、興、起、奮、發、シ、各、目、協、議、上、
 道、三、合、本、ノ、貿易、商、社、ノ、組織、ス、ル、決、定、
 シ、專、ラ、其、計、畫、中、ニ、シテ、未、タ、實、行、ハ、
 致、シ、居、ラ、ス、得、共、果、シ、テ、組織、上、ノ、貿易、上、
 ニ、大、ニ、改良、ヲ、加、シ、其、輸入、品、最、モ、重、シ、タル、金、
 中、之、如、キ、モ、産、出、地、ヨリ、直、輸入、ヲ、為、シ、需用、
 者、ニ、満足、シ、與、シ、他、ノ、壟、斷、シ、タル、目、論、見、
 ニ、有、之、孰、テ、各、商、估、ノ、願、出、ニ、ヨリ、別、紙、
 之、通、リ、シ、テ、エ、ス、タ、一、ヨリ、本、港、一、金、中、直、
 輸、ニ、係、ル、項、目、取、調、方、在、龍、動、國、由、領、
 事、ノ、及、倚、頼、間、脚、展、開、ノ、上、其、廉、價、
 勿、論、猶、脚、ノ、附、シ、儀、ニ、精、細、取、調、報、
 多、採、可、能、同、等、事、脚、訓、達、ニ、付、申、度、
 依、テ、別、紙、示、シ、是、本、共、多、ク、出、ル、ヲ、指、送、

3-0137

方ヲモ可然一御取計相成度此段申進
候也

明治三十年八月八日

在野

領事 室田義文

義文印

外務省官子青木周藏殿

○本冬ニテル園田ハ性善ハ至極送付シ本如ク寫ヲ存セズ

編者附言

在朝鮮國釜山港

日本總領事館

3-0137

五七
〇四

明治二十一年 八月 十八日 起草
同 廿一年 八月 十八日 發遣

二十一年八月十八日 達書

主任

外務省

第三四六號

岩崎大佐の并立取扱 外務省の大臣の件

朝鮮國に於ては、貿易ノ重要品ノ砂糖及金由於りて、

漸く支那國ノ方ニ奪入シ、存邦高専支品ノ有様ナリ、

有之り、復由以、支ラ、存邦高専支品ノ有様ナリ、

外務省

鐵器陶器及漆器ノ類、莫クテ、近々、朝鮮ノ好洋ノ者ニ

其利ヲモトメ、支那國ノ方ニ移入スルノ傾向アリ、

原國の神奈川、金、粗悪品ヲ輸入シ、

在邦の心ヲ右高専支品ノ方ニ移入スルノ傾向アリ、

予り、其ノ中、支那國ノ方ニ移入スルノ傾向アリ、

即ち、其ノ中、支那國ノ方ニ移入スルノ傾向アリ、

○本文ニ於ては、外務省第一二四号ノ書ニ準じて、

出件者ニ對して、

3-0137

第十七門

二十一年八月二十三號 内藤代履

記録局

報第一志一號

受第〇九七號

去ルニヨリ其ノ旨送分ニ五ニ歸シ以テ
仕向ニ於ケル日存者ノ貿易坂後ニ
復スル事見事朝鮮貿易ニ復スル
事有目見事且國向本邦其事又
其ニ復覽一政有目見事示一過リ
甲師ノ分ハ及日色度以象以相
申事也

明治廿一年八月廿日

若高野大匠伯耆村上野



紅梅堂書士隈彦信

農商務省

3-0137

十月十七日

二十一年九月二十七日發達 内藤代

通商局

外務部第一六四号 受第一〇一三五號

本川港ニ於ケル我雜貨貿易ノ件ニ付
送弟三四六號ヲ以テ鈴木領事具申
書添綴々申越ノ趣ヲ承知高
務局長ヨリ各製産ノ地方廳ハ通牒
為致主此段ニ答申進也

明治二十一年九月廿六日
農商務大臣伯耆井上 毅



外務大臣伯耆大隈重信 殿

農商務省

關係書類添

3-0137

明治二十一年十月十六日 起 發行
同世二十一年十月廿六日 發行

周氏 直高長
主修

朝鮮書道の発展

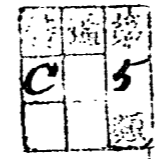
朝鮮書道の発展

過便朝鮮貿易回復の爲め、貴族が
多量に輸出し、一國の富が益々

外務省

清高の壓制せらるゝ原因は、朝鮮に
ソ復たる方策として、在朝鮮の日高の
結して大開の、長考、後、輸出の
の申合規則、行約、相競、甲、乙、丙、丁、
規、約、記、載、の、趣、意、を、考、へ、し、其、所、に、
特、に、及、ぶ、保、護、の、典、を、考、へ、し、其、所、に、
海、洋、を、主、業、と、し、其、所、に、海、洋、の、
商、業、の、一、部、を、其、所、に、主、業、と、し、

如左の如く、



八七

竹本 藤野 博士 著 藤野 博士 著 藤野 博士 著
藤野 博士 著 藤野 博士 著 藤野 博士 著
藤野 博士 著 藤野 博士 著 藤野 博士 著
藤野 博士 著 藤野 博士 著 藤野 博士 著

一 藤 野

藤野 博士 著 藤野 博士 著 藤野 博士 著
藤野 博士 著 藤野 博士 著 藤野 博士 著
藤野 博士 著 藤野 博士 著 藤野 博士 著
藤野 博士 著 藤野 博士 著 藤野 博士 著

二 藤 野

藤野 博士 著 藤野 博士 著 藤野 博士 著
藤野 博士 著 藤野 博士 著 藤野 博士 著
藤野 博士 著 藤野 博士 著 藤野 博士 著
藤野 博士 著 藤野 博士 著 藤野 博士 著

兼し又

法律上の要件を以て成るべきものなり

特許の権利を以て成るべきものなり

権利の行使を以て成るべきものなり

権利の放棄を以て成るべきものなり

権利の譲渡を以て成るべきものなり

権利の消滅を以て成るべきものなり

権利の取得を以て成るべきものなり

権利の保護を以て成るべきものなり

権利の行使を以て成るべきものなり

権利の放棄を以て成るべきものなり

権利の譲渡を以て成るべきものなり

権利の消滅を以て成るべきものなり

権利の取得を以て成るべきものなり

権利の保護を以て成るべきものなり

権利の行使を以て成るべきものなり

権利の放棄を以て成るべきものなり

権利の譲渡を以て成るべきものなり

権利の消滅を以て成るべきものなり

権利の取得を以て成るべきものなり

外務省

同是相

3-0137

白紙封書

法行社(ヤカニ)或坊(ハ)...

時大助(ト)行の権(カ)...

入(レ)便(ニ)...

法社(ノ)...

血(カ)...

レ(ト)規(ル)...

以(テ)...

私(ニ)...

私(ニ)...

難(ク)...

レ(ト)...

的(ニ)...

盟(ト)...

ノ...

和(ト)...

積(ニ)...

封行せしむる

シカ
シカ
シカ
シカ
シカ

3-0137

達ノ表ニ懸レテハ亦ノ法約^{公約}ニモ尤ク
有^レキトシテ^レ也

將又^レ其高価^カガ事^ニ高^クシテ^レ試^シテ^レ志
ハ美^クト^シテ^レ其^レ縁^ニ被^レ我^レ地物^ト也^レ及
南^洋ノ^地物^ト海^運シ^テ其^レ競^争シ^テ其^レ有^キモノト
制^限競^争申^シル^中モ^トソ^レ制^限カ^ラナ^ク要^スト^シ
其^レ表^シ得^テノ^開係^ト控^制我^レノ^利益^ト也^レ
予^テ其^レ事^ヲ時^ニ相^合我^レ商^一對^國法^シテ^レ之^ニ
外務省

當^レニ^モ制^限不^久ニ^堪ル^ニ能^ハズ^ル也^レ故^ニ我^レ換
券^ノ改^シテ^レ已^ク可^シ日^下制^限ノ^精意^ヲ入^ルル^ニ也^レ
物^ヲ予^テ未^ダ制^限競^争申^シル^中モ^ト其^レ有^キモノト^シ
凡^ク其^レ間^ニ自^ラ商^品ノ^身其^レ有^キモノト^シ其^レ例^之
包^中ハ^上海^ノ商^品ニ^シテ^レ其^レ有^キモノト^シ仕^力之^ヲ
制^限競^争申^シル^中モ^ト其^レ有^キモノト^シ我^レ商
品^ノ亦^ク其^レ有^キモノト^シ其^レ有^キモノト^シ其^レ有^キモノト^シ
其^レ有^キモノト^シ其^レ有^キモノト^シ其^レ有^キモノト^シ其^レ有^キモノト^シ

3-0137

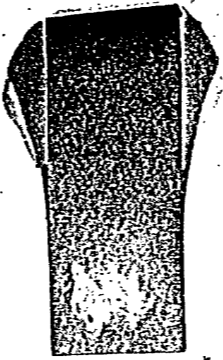
情高が仕入の事々後任用希望の力等々
又中ハ或ハ競争ノ不況易ク見立
有レコ付諸事油並上ノ油並ノ加
少年殺の如く此ノ後社ノ存
立行ノ具ハ日ハ其ノ備
事

石中

外務省

3-0137

0185



送第三七號

持	通	第
シ		少
		類

明治廿二年十月廿六日
同廿年十月廿六日
起草
發遣

自
主
子
地

筆
山
仁
可
學
院
子

新
報
留
學
回
復
方
案
之
對
策
及
其
他
一
切
之
事
務
均
由
本
省
負
責
辦
理
其
他
各
部
門
之
事
務
亦
由
本
省
負
責
辦
理
其
他
各
部
門
之
事
務
亦
由
本
省
負
責
辦
理

外務省

外務省

3-0137

ノ商人ニ與フシノ方法ナキ歟

昌按ニ目下右ノニ條ヲ講究スル以テ煙眉ノ急トシテ
トモ此等商以テ考據ヲ闡スル日付ノ郵便者送ノ日期ノ向
候存諸材料ヲ蒐集シテ十分調査ヲ遂ヘテ服ナク應テ何者
ノ定説モ立難ク候一此要スル銀行ト郵便年比ニ互相
待テ貿易ノ羽翼トシテ亦ハ勿論其關係甚大歟ト察スルテ
頃此等事可成離ラレシ今日下ノ状況ニ付テ其例決シテ
銀行金融閉塞スル為メ貿易ヲシテ阻礙スルノ官貿易
後ノ弊ニ郵便ノ終極ヲ成退スル自慢アリ政運ノ方法宜
キヲ得ス應當物ヲ精練シ高家ヲシテ換紙ヲ被シク成
遂ニ商人等運智ヲ停滯セシメ幣制ヲ失ルル此行ニ在リ故
今日日韓貿易ヲ維スル策ヲ海軍及郵船等此
政運ヲシテ今日之厚利ヲ圖ルニ久ト日付亦一五五銀

在朝鮮國日本公使館

行ニ於テニ或シテ欲望スル所加シ今日商人停シテ資金ノ
融通シテ貿易ノ室路ヲ閉塞スルコトナリ可カク必ス然
銀行ニ是也資金停滯ニ繼リ貿易運命ノ窮困ヲ致
スルニ成ニ高家ノ糾知破産ノ苦境ヲ免ルル能ハズ郵船等此
ニテ亦甚重難ク政ニ高家航運ノ利益少何ヲ欲シ其成
ハ不謂共倒レ國難ヲ冒スルコトナリト相慶言ハルコト世
斯事實ノ未ダ調査ヲ終スル迄ニ拘ラズ其苦境ノ甚重ナル事
候ハズ如ク自今更ニ其未ダ調査ノ物解貿易ヲ於テ家
ト大切ニ時々ニ以テ時ニ向テ以テ其凋殘スル事案ヲ恢復セ
サハス候ノ日ヲ待テ以テ其貴友ニ於テ右等事候ノ者ニ也
同感有ル候ハズ此沢森岡等トシテ協議スル此行ノ
テ惟敬時弊ノ故ノ良法ヲ案ニシテ其苦境ニ候此行ノ故
規ニ依リ郵船等ノ方ニテ確守スル所ナリ他ノ一節ニ銀行ノ見

此等
他ノ今
一面
銀行
ノ面
候
候
候

五ヶ月可居リテ初 去る事ハ又不可止ル、故且五部
物守此ニ於テ以 際時ハ高望運送方 信意ニ其積
初ノ教本ニ依リテ 修時ハ別ノ船隻ヲ考スルハ或ハ守
此テ當リ、別更 出ル、積積スル不都合ヲ制シ、高氏
満更ラ与ヘル、致テ不事ノ儀、有ル事、尤モ日會此ニ由
運權ヲ得ル元為、付、高為取扱上、粗暴ノ傾キ、此
外、其海利ニ有、是等ニ不事ノ儀、此、其者ヲ案
スル、此、有、右、事、國、官、易、ハ、本、局、之、案、ハ、此、ハ、付
シ、雖、不、取、扱、其、者、ノ、事、者、其、傾、傾、行、其、如、以、使、
吟、可、知、修、也



通商部長濱田徳則 殿

在朝鮮國日本公使館



廿一

二十一年十二月五日

通商局

公考四二編

受第一二四三六號

朝鮮、輪入、全中、似、付、宝田、領事、方、
松官、在、書、信、名、添、送、勢、七、三、号、
原、之、趣、お、承、別、紙、報、告、書、第、一、号、
未、一、覽、之、上、以、領、事、之、少、給、送、
以、以、出、年、十、月、十、日、

在龍動日本領事館

外務次官子春木園宛殿

在龍動日本領事館

3-0137

0194

寫

朝鮮之金印

雜第四二号

朝鮮之金印之儀ニ付法第六十八号ヲ以テ本省之經由は来示と趣教悉テ井エーホルスト組奉立之店長ハ拙官親シク面晤且往復々重ク末別紙報告見事也同此一語以下座敷は案内ト通り官吏ニテ存件之如キ取調願ル國難ニ後得テ一個ノ商人ト見做シ談話至シ吳ニ孫景初ヨリ先方ハ鶴浜ト上取調取付儀ニ付左様實際ニ及シ無庸有之同敷ト存立尚脱漏ノ件ニ及ラズ更ニ中越可也下取

石甲進出

明治廿一年十月廿日

外務省

在龍動
領事園田存吉

在釜山浦
領事園田義文殿

3-0137

金巾報告

和蘭銀行 (Bank of India) 組合員

該組ハ合率會社ニアラス 組合法ヲ以テ組織
セルモノナシハ其資本金及利益配當ノ割合
等ハ之ヲ察スルニ由ナシトモ在マシキエスタ
關係ニシノ商人ニ執キ身元取調タルニ該組
ハマシキエスタ一申願ル聲望アル製造家ニシテ
且商人ノ資格ヲ兼タルモノト云フ組合員ハ
四名(仲子兄弟)ニシテ雇職工凡シテ五百人一
ケ年製造高凡百之指當五(金巾類)多ク
ハ之ヲ印度及支那地方ニ移出スルモノナリ此
他外商ノ注文ニ應ジ他人ノ製造物ヲ賣買
スルモノトス是則チ商人ノ資格ニシテ失レカ

外務省

為ニ使役スル人自凡シ百人一ケ年取扱高ハ
自家製造額ノ凡シ倍ニ達スト云フ本店ラマン
チエスタ一置キ支店ハ龍動ニマリ其着地ハ

of New Brand Stock London E.C.

マシキエスタ一宛ニテ直接書通スルニハ

Messrs. G. & A. Deakin & Co. Manchester England

ニテ充分ナリト云フ

前件ハ專ラ他人ニ執キ取調タルモノナリ
ヲ以テ果シテ案ヲ得タルヤ記者保証スル
能ハカレナリ

見本 (宮田領事ヲ送付セル見本類ノ五物ヲ)

宮田領事ヲ送付ノ見本中甲号ハ其地合等
該社ノ製造品ト左様ナリ記号異ナル處ア



ルヲ以テ恐ラクハ該組ノ製造品ヲ他人模造レ
 タルモノアラレト云ク乙号ノ方ハ現ニ該組ノ製造
 品ニシテ緑色ノ四角ナル紙封条ヲ付シ一ハ
 中央ニ竜ノ頭ト鷹ノ繪ヲ記シ四方ニ *Trade*
Mark *G. J. K. Dierker* 等ノ語アリ今ハ
 鷹ノ繪ニ *No 382* *Trade* *Mark* *G. J. K. Dierker*
Wurst ノ語ヲ添付アリ此三者ハ即該組ノ商標
 及記号ナリト雖其外全見本中「*Trade*」及
 義源トアルハ混未該組ノ注文セルモノ、記号ニ
 シテ若我商人直接注文スルニ於テハ此兩記
 号ヲ付スル能ハス之ニ代用スル相違ノ記号ヲ
 付スル丁肝要ナリ (身商人ノ商標ニシテ記号ヲ云フ
 實際注文ノ時ニ之ヲ該組ニ送リ在物添付トス)
 甲号ニモ種々ノ記号アリ之ヲ該組ニ製造セル
 外 務 省
 此ニ於テハ乙号ト同様ノ振合ヲ以テ記号ヲ付
 ス可キモノニ付更ニ明解ヲ要セス
 室田領事ヨリ送付ノ見本中甲号ハ幅四拾九
 イレチ乙号ハ四拾八イレチトアリ然レニ該組ニ於
 テ後未製造セシモノハ通常双方号ニ於九イ
 レチノ幅ナル由ニテ恐ラクハ誤記ナル可シト云レリ
 左記ノ代金ハ三拾九イレチノ幅ニ依リ計算シ
 タルモノナレバ若シ四拾八イレチノモノハ處置ナ
 レハ其取立ニ應スベシ然レテ代金ハ其反ニ付
 左記ノ價格ニ部志程ヲ増スニ至ルベシト云フ

價格

見本甲号方 (封条)ニ付ハ志六厘
 但前作費及マシエスカーヨリリバー

港色ノ運賃船積費等ヲ合算シタルモノ
ナリ之ヲ F.O.B (Free On Board) ノ五段ト
テ則リバプールの渡ノ價格ト云フ意ナリ
見奉乙号ノ方々々ニ付九志置

但全上

意勤液ニスルトキハマンチエスターヨリノ寄
債リバプールの色ノモノニ比スレハ多少高キ
方ナルヲ以テ差支ニ付差居ノハ各ノ七程代
金増ニ至ラシト云ワリバプールの液ニスルトキ
ハ右價格ノ外ニ多額ニ付 (五十元) 之程程ノ
費用掛ル由波戸場ニテ荷物取締等
ノ爲メニ要スルモノナリ意勤液ニハ此費
用ヲレト云フ原料即生棉等ノ相場高
外務省
仰ナルニ從ヒ時ニ製造品ノ立段差ルモノ
ナリヲ以テ前二項ノ價格ハ必シモ常ニ一
定シタルモノト解スニカラス

船賃

英國ヨリ日本色老順ニ付現存ノ處五志ナリ
(現今ハ船會社間ニ競争ヲ起シ船賃大ニ下居ヤリ
通常ハ平均凡ニ拾四五志ト知ル可シ) 船賃
ハ商業ノ繁栄ニ依テ著シク差違ヲ生ズルモノ
ナレバ凡廿二三志ヨリ四拾七八志迄ノ處ヲ昇降
スルモノナリ及物類ノ如キハ面積ニ依リ (四十左右
尺ヲ以テ) 噸ト積ル) 船賃ヲ取立ルモノナリ金巾
類ハ凡四噸ニテ差順トナレ可シ多額ハ五拾及十
ルヲ以テ則チ多額ハ百及トナレ故ニ百及ニ付

口五志ト云フモ可ナリ

船賃ハ郵船ト通常船ト多少差異アリ且時機ト競争等ニ依リ孰シモ高價アルモノアリハ豫メ一定ノ割合ヲ示ス一能ハス五物類ノ如キハ多少ノ積船ニ積ムヲ以テ察スルニ郵船ニ積ムヨリモ多少低價アルモノナラン乎ノ風帆船ニ至テハ運賃安キモ保険料高ク且着船ノ期日豫定ニ難キヲ以テ近來風帆船ニ積移スルモノ甚ク稀ナリト云フ殊ニ海上ニヶ月以上ノ時日ヲ要スルモノナレハ金利ノ損不尠言風帆船ニ積ム益ナキカ如シ英國ヨリ横濱神戸長崎或ハ上海ヘノ船賃ニ大差ナシ長崎ハ英船ノ航行少ナキヲ以テ或ハ多少船賃高キ方ナル可シト云フ

外務省

モ非常ノ差ナキモト信ズルナリ

金印類ハリバアールヨリ移ス方便利ナル可シ同港ヨリハ東洋通ノ郵船ナキヲ以テ常ニ荷船ニ積ム可シ

保険料

海上保険料ハ百磅ニ付凡積ニ三志ナリ船舶ノ等級下保険ノ付ケ方等ニ依リ多少ノ差アリト云フ船賃ノ如キ時々高價アルモノニアラス

○ *Cold Insurance and Freight* 運送上前記リ

バパール或ハ音動派ノ代價ニ船賃保険

料等ヲ合算レタルモノナリ則日考後ト

云ク意ニシテ後組一切ヲ擔任セシムルニハ詰

リ此立限ニテ約束スルキモノナリト倉庫(此立限ハ通常一時一周毎ニ特約スルモノニテ永久ニ取定ムルト能ハカルモノナリ)前記ノ如ク物價船賃吾常ニ動キ易キモノナレハ豫メ日本債ノ立限ヲ取定メ置ク7難ニ時々ノ相場ニ據リ定ムルノ外ナキカ如シ此儀ハ預組ニ信用ヲ措テ一切ヲ托スルヤ或ハ他ニ信用アル代理者ヲ置クヤヲ決スルノ要點ニシテ我商人ノ能ク評議ヲ尽スベキ處ナリ記者預組ノ身元ヲ取調タルハ右等評議ノ場合ニ臨ミ多ク我商人ノ参考ニモナラン事ト推測セシニ因ルモノナリ

代金仕拂方

外務省

代金ヲ拂フニ法アリハ該組ラシテ我商人宛ノ手形ヲ振出サシムルト則チ荷爲替ナリ他ノ一ハ銀行ラシテ單ニ代金ヲ預組ニ仕拂ハシムルトナリ其ニ現金拂ヒシテ孰シノ法ニヨリ代金ヲ法取ルニ該組ハ船積証券其他ノ書類ヲ銀行ニ交付スルモノナリ銀行ハ此書類ヲ立ニ存貯ニ轉送スルモノトス

時トシテハ荷物積手ノ上代金ヲ送ルルモノナル用ナレバ最初ヨリ此法行ハル可トモ信シ難ク後令行ハルニモ荷物積出ノ時ヨリ代金積手迄ノ日數ニ應ジ利子ヲ取立ル或ハ物價ノ代價ヲ増スモノナル由ニ付注文者ノ爲メ格別益十カレ可シ

減價

マシタエスタ一製物品ハ通常減價ナシト云フ
然レハ前述ノ通り船積海運類引替ニテ
代價ヲ請取ル場合ニハ凡ク各ノ一ニ當ル減價
ヲナス可シトノ一ナリ手取ヲ提出シ代金ヲ受取
ルニ於テハ若シ我商ノ手取面ノ高ヲ拂戻ス
一ヲ拒ムカ或ハ拂戻シ得ナル一アリトセハ手
取振出ノ身差ニ當ルモノナルヲ以テ手取引替
代金請取ル場合ニハ石ノ割引ヲナサズト云フ

銀行

商業取引ヲシテ完全ナラシムルニハ我商ノ先
ツ出ハ銀行(貴商ニ関係ヲ有スルモノ)ヲ定メ
凡ハ何カラス提議神戸長崎ニ於テハ凡ノ銀
行アリ

外務省

New Oriental Bank

Yongkong & Shanghai Bank

正金銀行(長崎ニハコレニマシテ)

此外二三ノ銀行アリ

正金銀行ト約束叶ハ至極好都合ナラシ代金
仕拂方前二法ノ内孰シカ便宜ナルヤハ我商ノ
ノ能ク熟考ス一キナリ勿論我商ノニ便利ヤ
ルモ銀行ノ業務ヲ要スルモノナレバ其方熟識スル
一肝要ナリ孰シノ法方ニ致セ候組ヨリ代金仕払
方ヲ要求セシ時ニハ互ニ之ニ懸セシノカレハカラス
之ヲ為サントスルニハ係テ銀行ニ多少ノ預金ヲス
ルカ或ハ其他取引ヲ深キ身信用ヲ示シ特約ヲ

往ノ必要ナリ仮リニ手形振出ノ方ト定メ我
商人ハ該組ハ其旨ヲ通知シ銀行ヨリモ電勸
去店或ハ本店ヲ經テ同様ノ通知ヲ爲シ一
々年凡何萬圓ニ當ル金額ハ何時ニテモ荷爲
替取組ム一キ一ヲ証明セシムル此手形ヲ經カ
同ハ該組ニ於テ注文ヲ引取カレトス

手形

手形ニ凡三種アリ荷爲換ニ用エル手形ハ通常
一覽後六十日目拂トス該組荷物船後ト上ハ手
形ヲ製シ船積取取ト爲シ之ヲ当地銀行ニ
送り代金ヲ請取ルモノナリ当地銀行ハ日本
其支店或ハ本店ニ轉送シテ手形(船積取取ハ
時迄銀行ノ押)ヲ我商人ニ示シ仕拂方ヲ議
置クモノナリ

外務省

セシム其期限ニ至シハ伍分如何様ノ一アルモ仕拂
延期ノ相済等ヲ爲ス可カラズ如此處爲ハ我商
人ノ信用ヲ墮レ營業ヲ害スルモノナレハ取モ注
意スルキ一ナリ若シ又期限内ニ掛戻カレテ
望ム時ハ銀行ニ於テ残餘ノ日數ニ對スル利
子ヲ(銀行所在地金利ノ割ニ依リ)手形面ノ
高ヨリ差引クモノナリ之シRateト云フ例
勤トセシ信用アル商人ニ對シテハ手形ニ裏立
セシメ互ニ荷物ヲ引渡ストマリト案信信用アリ
或ハ特約ナリ以上ハ金額ヲ請取ラスシテ荷物
(荷爲物ナリ)ヲ手放スルヲナカレ可シ

為換相場

英國ト日本トノ為替相場ハ特ニ高價アルヲ

以テ一定ノ割ヲ受テ國ヲ難シ昨今ノ相場ハ
凡ノ如シ

龍動ヲ日本第一階級六十日押上げ
銀債を國ニ引三志〇ハ分ノ一替

金銀價格ノ一ハ近來ノ一大問題ニシテ專業
家ニ於テ之殆ト前途豫定ノ案立難キ事
、如シト案自今後需要供給上飛騰ノ變動
ヲ未カルニ於テハ先着分石ノ相場内外ヲ維持
スルモノナラン事

マンヤエスター價格

該組ハ通常リバプール派シ或ハ竜動派ノ立
段ヲ以テ取引シテスモノト多ク是等ニマシテエスター
ノ立限ヲ知ラシトセハ前二項ノ價格ヲ考へるニ付

外務省

半片程ヲ引去ル可シ我々ハ即該地豪商ノ相
場トナル

口鉄

該組ハ甲乙見存兩種大ノ取扱ニ付テ自家ノ
製造品ナルヲ以テ別ニ口鉄ヲ要セスト云フ係
ト商人ノ價格ヲ以テ他人ノ製造物ヲ取扱フニ
於テハ相当ノ口鉄ヲ拂フ一必要ナルニ

便利

我商人果シテ該組ト直接取引ノ標準ニ至リ陸續
多數注文ナルニ於テハ物因ト他ニ直接取引
ヲ用カス勉メテ且商人ノ利益ヲ謀ルニレト
マハリ

電信暗号

我商人等國下取到スルニ控テハ暗ト電報ヲ用
 子ルヲアル可シ豫メ簡便ナル暗号ヲ設ケ取到
 先キト打合セ置ク下必要ナラニ姓名等ヲ取
 ル可ク簡便ナル語ヲ用ヒ宿所ト共ニ之ヲ電
 信局ニ登記シ置ク可シ

意見

前述中ニ主記者ノ意見不鮮ト云居尚右ニ
 身見ヲ述我商人ノ意見ニ俣セシトス
 我商人等國製造家ト云居取到ノ業ハ記
 難至極習成アリト云居凡人世ノ事ハ一得
 一失アルモノニシテ初ラ見テ害ヲ察セカレト
 云先取ヲ取ルモノナリ我商人ト云居製造家
 間ニ取ルノ事ヲ短ハスハ固ヨリ不利多クナリト
 云居中間ニ在ルノ代理者ヲ置カカレカ如キハ
 海外取到上尙幼稚ナル我商人ニ取リ或ハ
 録リ極点ニ達スルモノト云ハシ今在ニ海外取
 到上通常必要ナル人員ヲ置ケントス

外務省

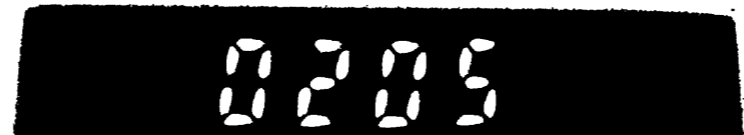
- 甲 駐外人 日本
- 乙 代理人 暹羅
- 丙 製造人 英國
- 丁 銀行 日英關係

乙ノ職務

一乙ハ甲ト丙トノ中間ニ在リテ甲ノ注文ヲ丙
 ニ傳ヘ見本ニ相違ナク製造セシメテ製造送付
 ノ上ハ之ヲリバプーニ或ハ電報ニ於テ取到
 丙ニ代金ヲ拂ヒ然レテ荷物ノ船積ヲナシ船

貨物保險等ヲ押ニ船積証券類ヲ携ヘテ丁ニ
 至リ荷爲替ヲ取組ニ代金ヲ請取其次便ニ
 明細勘定目録ヲ携ヘ荷物船積シテ其爲
 替取組ノ一ニ至ル迄要曲申ニ報告スルモノ
 ナリ
 二若シ着船ノ上見本ニ相違エテ其代金ハ甲ノ
 指揮ヲ受ケテ丙ニ迫リ正誤セシムルノ義務
 アリ
 三海上ニ於テ荷物損害ヲ受ケルカ況没スル
 等ノコトナルトキハ乙ハ甲ニ代リ保險金ヲ
 取立ルモノナリ
 四積荷ニ關シ同着シ来ス一アルハ乙ハ之ヲ
 代官人ノ意見ニ付シ或ハ仲裁法ニ據リ處
 分シテ可成甲ノ便利ヲ謀ルモノトス
 五丙ヲ爲メト定メテ製造家同ニ競争シ起サ
 シメ可成品位善良ニシテ廉立ニ製造家ハ
 尙注文スルモノナリ
 六積荷ノ時ニハ前以テ諸船會社ヲ同存セ
 可成運賃安キ會社ニ委託シ積荷ス等ノ一
 ヲ爲スモノナリ
 右種ノ執務ニ當リ甲ヨリ受ケル所ノ口紙
 通産部分ヨリ部分五層迄下ス
 但金印ノ如キハ最モ取扱易キ品ナルヲ以
 テ其分取キ分取ニテ特約ヲ結ブ一ハ
 フバシ
 今表ニ直接取引トセハ一ハ其事務ヲ

外務省



甲乙兩同ニ分擔セサルベカラズ此分擔ニ付き前
記第一項末文及第三項ノ事務ハ兩ニ引
受ベキモノト雖任其他ハ多ク甲ノ擔當スヘキ
モノニシテ實際處并シ能ハルル事柄不尠カ
如シ第二項第四項ノ場合ニ於テハ甲兩同書
及後復等最モ注意セラル可カラズ則甲ノ職
務ハ英國商業ノ習慣ニ曉通シ英語英文
ヲ能スルモノニアラカレハ能ハズ是日亦ニ於テ最
モ得難キ人物ト察スルナリ丁ハ甲乙同ニ立
方ノ便利ヲ得ルモノナリ然レモ能ク其便利ヲ
得ントスルニハ甲乙共ニ丁ニ對シ厚ク信用ヲ
示カレ可カラズ

明治廿年十月廿日 領事 園田孝吉記

外務省

報告中誤組トアルハデ井キ一ホルト社ヲ指ス又
我商人トアルハ他日組織スヘキ金印會社ヲ
云フ

竟動ニハ三井物産會社高田組内外用達會社
ノ支店アリ三井物産會社支店シレテ代理ヲ
テレノレ字口銀ハ各款を各字ニテ特約叶
フ可シ果シテ同支店ニ托スルニ於テハマンエヌク
一及物相場等ニ通後ノ割合等時々領事
館一報告セシムルニ敢テ差支ナカルベシ



金印代概算(日奉渡ノ五段)

一 英債九志四片

見奉乙号代を五分

一 郵片

美国より日奉途ノ運賃を五分

但郵片五分三厘之計四五志ト積ル

一 三フバジング

美国より日奉途ノ保陸料を五分

但百磅ニ付凡七志ト積ル然レテ百

磅及ノ代金ヲ百磅ト概算ス

合英債九志六片四分ノ三

此銀債三片七志五分

但至同ニ付三志五分ノ一前記ノ為替
右場ナリ

外務省

右ノ代金ニ日奉ニ付テ陸揚費積替費朝鮮

途ノ運賃保陸料朝鮮ニ付テ陸揚費其他諸

雜費及相考ノ利益ヲ合算シ始メテ我商人

ノ販賣スルキ立段トナル

第十七門
S O

二十一年十一月十一日 内閣代官

通商局

後

公券四三編

受第一三〇八八號

朝鮮へ輸入金中、
附之報告書、
本四種之得、
便之送付、
ハ送送リ多也

明治二十一年十月三十日

領事園田若生

園田若生

外務次官青木周旋殿

進る當國郵便規則トシテ高島見奉ハ凡ク高島見奉
前ハ水ラサレハ郵便送ルハ得サルヲ、
在龍動日本領事館

3-0137



全中見本の解書

甲 乙

商標	記号	幅	長さ	重量	代價
角カノ織 H.W.D.	HW.D	三十九インチ	廿八碼半	拾貳度分六	此若四片 但此若四片
鷹ノ踏 R.B.M.	R.B.M	三十九インチ	全	拾貳度	ハ此若四片 但此若四片
羽子板 A.A.	A.A	四十五インチ	全	九拾度	七此若四片 但此若四片
ハカマ B.B.	B.B	日	全	全	全

甲ノ此若四片、富田、教事、了、送付、見本、ト、同、標、ノ、モ、ニ、ミ、リ、
別、テ、丹、エ、ー、ホ、ル、ス、ト、強、シ、於、製、造、ス、ル、モ、申、上、リ、他、日、注、文、ス、ル、於、
テ、ハ、右、ノ、商、標、及、記、号、ヲ、用、シ、ト、ス、我、商、人、ノ、意、ニ、適、ス、ル、ヤ、
否、取、知、シ、タ、キ、ト、ナ、リ、但、此、外、我、商、人、ノ、商、標、及、記、号、ヲ、付、ス、キ、
付、シ、テ、販、賣、ス、ル、コト、ハ、
照、在、愛、ア、ル、ハ、シ

乙ノ此若四片、強、阻、ノ、製、造、物、ニ、ア、ラ、ス、從、來、在、本、邦、ノ、輸、送、
セ、レ、モ、ハ、多、ク、此、種、類、ナ、ル、コト、ハ、考、査、上、ニ、差、出、テ、強、阻、
在、龍、動、日、本、領、事、館、
經、テ、此、若、四、片、注、文、ス、ル、ヲ、於、テ、行、ハ、凡、此、若、四、片、ノ、口、袋、ヲ、申、受、メ、
ト、コ、ナ、リ

右、見、本、四、種、ノ、申、上、リ、シ、テ、右、若、四、片、
留、セ、リ



第十七
S
O

明治二十一年十二月十八日
同廿一日十五日
廿二日
後遣

主任

廿一年十二月二十日

自
信
書

在
倉
山

信事 一宮田義太郎 加藤淳子 幸内...

初稿を楊入金中... 加藤淳子...

書... 加藤淳子...

書... 加藤淳子...

外務省

本... 加藤淳子...

書... 加藤淳子...

右中道...

見本...

3-0137

第 80 号

朝鮮國釜山港總領事館

二十二年一月二十三日接受 内務代印

通商局

公第十一号

第七八二號

朝鮮國釜山港總領事館
内務代印
二十二年一月二十三日接受
通商局

釜山
領事館
義文田

外務省
文書課

廿二年一月廿四日 露濟總領事館 接受

3-0137

0212

機密



明治二十二年三月

朝鮮^{於テ}我貿易商民^{ニ對シ}制限ヲ設クル義

渡邊副領事ノ意見

外務省

3-0137



機密

周
外
文
書

第九一第受

廿二年三月廿二日 陸軍 内閣代官

機密

外

秘書官

通商局 政務課



洋文

平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
高島正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の

平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の



平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の
平谷正之丞 敬啟者 貴局より送付の

在朝鮮國日本使館

3-0137

0215



受第一九〇號

廿二月廿二日接

機密之三紙

通商局

秘書官

公使館經由

朝鮮國に於て我人其の貿易の行事する者、制限の設けられ、我人等が欲するもの見起すに於て、一覽の上の如きもの採りしに、先づ申す。

在元山

明治廿二年三月七日

副領事渡邊修

副領事渡邊修

外務大臣伯大限重行殿

先便様書之二紙、以上申す如きもの採りしに、先づ申す。以上申す如きもの採りしに、先づ申す。

在朝鮮國元山港

日本領事館

渡韓者ニ制限ヲ設クルノ議

凡ソ一國ヨリ他、一國へ無智無産ノ下等人民多ク渡来スルハ兩國ノ交際上及通商上ニ於テ得策ニテラザルベシ抑モ國ヲ鬧テ他國ト交ヲ結フハ政治上ト商業上ノ目的ニ外ナラザルベシ故ニ甲國ガ乙國ニ對スルハ商業上ニ於テハ格別必要ナキモ政略上ノ点ヨリ之ト好ヨ修メ之ト親密ニセザル可ラザル場合アリ又丙國ガ丁國ニ對スルハ政治上ノ關係ヨ有セザルモ單ニ高賣實利ノ点ヨリ之ト交ヲ通シ之ト往復セザル可ラザル場合アリ之レモ何レノ邦國ト雖モ他、邦國ニ對スルハ唯一方ニノニ偏スルニ非ラズシテ右二点ノ目的ナルベシト雖亦自カラ利害關係ノ輕重大小ナキニアラズ今我帝國ガ朝鮮ニ對スルハ政治上ニ於テノ必要ハ勿論商業上ニ於テモ其利益尠カラス即政治商業、二点ニ於テ最モ關係ノ大ナル國ト云フベシ然ルニ今日ノ如ク無智無産ノ賤民夥多渡来スルニ於テハ朝鮮人ノ信用ヲ失シ當ニ商業上ノ不利ノミナラス政略上ニ於テモ妨害少カラザルベシ然レトモ政略上ノ利害ヲ速フルハ本論ノ趣意ニアラズ且ミ予ノ云フベキ事ニモアラザレバ單ニ商業上ノ点ヨリ觀察ヲ下シ左ニ具不利有害ナル理由ヲ陳ベントス

在朝鮮國元山港

日本領事館

其筋ヲ調査ニ依レハ自明治十八年至今二十年三ヶ年間朝鮮國へ在留スル帝國人民ノ數ハ左ノ如シ但シ二十二年日調

年次	職業	公用	留學	商業其他	總計
十八年		二百三十一人	五十四人	四千二百三十一人	四千五百九十六人
十九年		二百四十二人	六十九人	四千七百二十五人	五千〇三十九人
二十年		二百六十九人	七十一人	五千三百三十七人	五千六百七十七人

右ノ表ニ依レハ渡韓者ノ數ハ年々増加スルノ實アリ未
 タ比一年十二月廿一日ノ現在算ヲ知ルヲ能ハザレトモ想フ
 ニ必ス二十年ヨリ増加セシヲナラシメ今二十年ニ於テ公用及
 留學者ヲ除キ商業其他ノ為メニ在留スル者實ニ五
 千三百三十七人ノ多キアリ予ノ實見スル所ニ依レハ右五千
 三百餘人ノ内幾分ノ有智有産ノ者ハ最小部分ニ過キ
 スシテ他ハ悉ク無智無産ノ人民ナリト云フベシ凡ソ何レ
 ノ場所何レノ邦國ト雖其居住ノ人民ヲ比較セハ無智無
 産ノ者其多數ヲ占ムルハ例ニシテ敢テ怪ムニ足ラザルカ
 如シト雖商業ノ為メ外國へ渡航シ外國ノ通商港ニ居
 留スル者ニシテ我人氏ノ朝鮮國へ居留スル者程無謀無
 産ノ者多キハ未タ曾テ見聞セザル所ナリ

又那高、外國へ出稼スル
 者多シト雖モ其ノ資産
 我商民ノ比ニアラザルベシ

在朝鮮國元山港 日本領事館

朝鮮海關ノ報告ニ依レハ二十年中朝鮮ノ外國貿易高ハ
 五百〇〇萬八千七百〇六円ニシテ沿海貿易高ハ七拾五萬三千
 百〇八円ナリ朝鮮海關ノ事務未タ完全ナラザルカ為メ
 輸出入高ノ如キモ正數ヲ得ル能ハサル憾ナキニアラザレド
 モ二十年ノ貿易高外國及沿海貿易高ハ蓋シ六百萬円ノ上ニ出テザルベ
 シ右ノ内日本人ノ營業高ハ四百四拾五萬円ノ間ナラン僅ニ
 四百五拾五萬円ト見劬シ之ヲ前記商業其他トアラドモ殆ト皆高
 業ノ為ナレハ單ニ商業者トナシ
 八千四百三拾三萬餘ニ當ル海外ノ貿易場ニ居留スル商估ニ
 シテ一人一々年僅ニ八百四拾三萬餘ノ賣買ヲ為ストハ實
 ニ驚クベキニアラスヤ然リト雖モ實際可ナリノ資産ヲ
 有シ貿易ヲ營ムモノハ右總算ノ内百分ノ一即チ五拾人ニ
 過ギス其家族雇人等ヲ合スルモ三百人ニ超ヘザルベシ其

他ノ四千九百餘人ハ皆無産ノ輩ニシテ少許ノ雜貨ヲ賣買スルカ彼我ノ間ニ立テ仲買ノ業ヲ為スカ其他種々ノ方法ヲ以テ辛クシテ糊口スル者ナリ僅々四百五十拾万円ノ貿易ヲ營ム五十人尚甚ク多キニ過ク況ンヤ之ニ百倍ノ人アルニ於テヤ故ニ通商ノ点ヨリ考ルキハ右四千九百餘人ハ無用ノ者ナリト謂フヘシ否無用尚ホ可ナリ其内有害ナル者アルヲ奈何セン、

商業上ニ信用ノ必要ナルハ予ノ言ヲ俟タス然ルニ我国人ノ兎角朝鮮人ニ對シテ信用ヲ得ルハ何ソヤ之レ無謀無産ノ輩朝鮮人ヲ租界ニ取扱フノ弊アルト且取引上確實ヲナラス輒モスレハ奸計ヲ行ヒ以テ不正ノ利ヲ射ラントスル者アルニ依レリ今日ニ當リ從來ノ惡弊ヲ矯メ朝鮮人取扱ヲ丁寧ニシ取引上確實ヲ旨トシ以テ信用ヲ

在朝鮮國元山港 日本領事館

得ルニ注意スルハ目下ノ急務ナルベシ
朝鮮ノ貿易ハ甚ク幼稚ニシテ朝鮮人ハ外國ノ貿易ニ慣熟セサルカ故ニ我商民ハ之ニ乘シテ頗ル商利ヲ得ベキ筈ナルニ實際ハ然ラズ今日迄朝鮮貿易ノ為メニ利益ヲ得テ身代ヲ起シタルモノハ少クシテ損失ヲ蒙リ資産ヲ破リタルモノ多キカ如キハ何ソヤ之レ畢竟種々ノ事情アリテ少数ナル真正ノ貿易商ハ多数ノ無謀無産者ノ為メニ妨ケラレ充分ニ已レノ營業ヲ擴張シ自在ニ取引ヲ行フヲ能ハガリシ爲メニ依ルナラシ乎目下ノ狀況ニ於テモ幾分此邊ノ事情アルモノ、如シ殊ニ商賣高ハ少クシテ之ヲ營ムモノ多人数ニ至ル片ハ利益ヲ多数ノ人ニ分配セサル可ラカ故ニ遂ニ營業不引合ニ至ルベシ營業不引合ニ至レハ有資ノ商估新ニ渡来セザルハ勿論從來



可ナリノ資カニテ貿易ニ從事シ居ルモノモ閉店帰国スルニ至ルベシ果シテ然ルハ無智無産無謀無力ノ下等ノ朝鮮ニ在留スルニ至ルベシ目下有カナル商估渡来シテ以テ朝鮮貿易ヲ回復スルノ必要ヲ感スル時ニ當リ若シ右等ノ傾向アルニ於テハ實ニ憂フベキノ極ナルベシ近來各港ニ於テ内地行商ヲ為ス者増加セリ内地行商ノ為ノニ一々年若干ノ賣買アルヤ若干ノ收益アルヤ其高ヨ知ルヲ能ハサレトモ貨物ノ運輸ニ至リテハ海陸共ニ其使ニ任スノ自由アレハ賣買ノ高ハ鮮少ナラザルベシ然レドモ行商者ハ多クハ彼ノ仲買ト称スル無謀無産ノ徒ナルカ故ニ漸ク弊端ヨ生シ貿易上ノ利益ニ至ルノ傾ナキニシモテラス内地行商ノ事ハ自ラ別問題ニシテ若シ行商ニ付不都合アレハ之ニ對シテ適宜取締法ヲ設ケルハ可

在朝鮮國元山港

日本領事館

ナレトモ幾分カ本論ニ関係アレハ茲ニハ唯特ニ無智無産者ハ行商ニ付テモ害アリトシテ示シ置クベシ右ノ如ク無智無産ノ者多ク渡航在留スルハ貿易上ニ弊害大ナルヲ以テ之ヲ醫スルニハ渡韓貿易ニ從事スル者ニ制限ヲ置クノ外ナシ制限ヲ置クニ付テハ實際種々困難アルベシトモ適當ノ方法ヲ設ケルニ於テハ行ハレハルヲハアラザルベシ其法ヲ如何スベキ乎請フ尤ニ之ヲ述クベシ予ノ趣意ハ無智無産ノ者ノ渡韓貿易ニ從事スルヲ禁スル積トレドモ人ノ智タル無形ニシテ之ヲ計ル標準ナシ然レトモ無産ノ者ハ多クハ無智ナルカ故ニ之ガ標準ヲ設ケルハ單ニ資産上ヨリセサル可ラス尤モ資産者必ズシモ智ナラズ有智者必スシモ富ナラズ智アリテ産ナキ者産



アリテ智ナキ者無キニアラスト也。這ハ之レ例外ニシテ概子
 智ト産トハ両立スヘキモノナリ良シ有産者智ナラスト雖モ
 無産者ニ比スレハ自重自愛ノ心厚ク無謀乱暴ノト少キ
 ヤ明ナリ故ニ渡韓者ニ向テ制限ヲ設クルニモ其標準ハ
 財産ニ取ルヲ以テ適當トス之ヲ實行スルニ付テハ其個条
 ハ二三ニ止マラサルベシト雖モ大略左ノ条々ヲ要スベシ
 動産不動産ヲ論セス何円五百円又
六十円以上ノ資産ヲ有スル者ニ
 非ラカレハ朝鮮國へ渡航シテ貿易ニ從事スルヲ許サレド、
 右ノ資格ヲ有スル商估ノ家族雇人及條約面ニアル漁業
 者并ニ官吏留學生醫師僧侶其家族雇人其他獨
 立シテ貿易ニ從事セラル者ハ第一項ノ制限外トスルナ
 朝鮮國へ渡航シテ貿易ニ從事セントスル者ハ其何円五百円
又十円
 以上ノ財産ヲ有スル者タルヲ証スルチ足ルベキ本籍府
 在朝鮮國元山港 日本領事館
 縣知事ノ証明書ヲ添ヘ帝國領事館ニ願出營業標
 札ヲ受ケシムルヲ第一項ノ資格ナキ者朝鮮國ニ於テ密
 ニ貿易ニ從事シタル片ハ領事ヨリ其營業ヲ差止メル
 一等又目下在留者ノ處分方ハ各自本籍府縣知事ノ
 財産証明書ヲ領事館ニ差出リシノ第一項ノ資格ナ
 キ者ハ此依若若干年三年又
四年間ノ猶豫ヲ與ヘ其期限ニ至
 リ一方ニ於テハ本籍ノ財産ヲ取調べ他ノ一方ニ於テハ在
 留地ノ財産ヲ取調べ領事ニ於テ第一項ノ資格アル者ト
 見認メタル片ハ依然引續キ營業ヲ許シ又其時ニ於テモ
 尚第一項ノ資格ヲ有セザル者ハ獨立シテ貿易ニ從事スル
 一ヲ禁スル等ノ方法トセバ可ナルベキヲ將又人ノ財産ニハ
 時々浮沈アルモノナレハ二年若クハ二年ニ一度各在留商估
 即今獨立シテ貿易ニ從事
 スル一ヲ許シタル者ノ財産ヲ取調べルノ方法ヲ設クルモ亦

必要ナラン

説ヲ為ス者アラン素ト海外ノ貿易場ヘ労働者ノ渡航スル必要ナシ其國ノ労働者ニテ事足ルベキモノナレドモ朝鮮ニ於テハ同國ノ労働者ヲ使役スルヨリハ日本ノ労働者ヲ使役スルノ便利ナル場合モアリ且我國ト一葉障海ノ國ニシテ往來ニ厄迄ノ費用ヲ要セサルカ故ニ労働者ノ渡來スル者モ多ク從テ貿易商ノ使役スル者少カラス今一朝渡韓者ニ制限ヲ設クルニ付テハ此等労働者ハ忽チ困難ヨキ貿易商モ亦不便ヲ感スルニ至ルベシ云々然レドモ這ハ憂フルニ足ラス何トナレハ前ニ陳ル如ク制限ハ貿易ニ從事スル者ニ對シ設クル趣意ナレハ居留地限リノ荷造荷揚ケ船積等ヲ為スカ役者ノ渡韓ヲ禁スルニアラハバナリ況ンヤ良シ之ヲ禁ズルモ貿易商ハ入用大ノ雇人ヲ渡

在朝鮮國元山港

日本領事館

航セシムルノ途アルカ故ニ毫モ不都合ナキニ於テヤ又説ヲ為ス者アラン成程朝鮮ニ於テハ無謀魚産ノ商業者多ク為メニ一般ノ利益ヲ害スル下少カラザルベシト雖モ此等ノ者ハ朝鮮ナレハコソ商業ニ從事シ以テ僅ニ生計ヲ立ツルヲ得ルモノナルニ今此輩ノ營業ニ向テ制限ヲ置キ歸國セザル可ラザルニ至ラシメ又ハ新ニ渡來スル者ヲ防クハ我内地ニ於テ直ニ困難ニ陥リ種々ノ惡業ヲ為スニ至ラン即彼等ノ朝鮮ニ於テ糊口ヲ得ルノミニテモ我國ノ利益ナラズヤ云々右ハ一理ナキニアラザルカ如シト雖モ未タ服スルコト能ハザルナリ凡ソ事ハ利害ヲ比較スルコト所要ナリ利大ニ害小ナルハ之ヲ取り害多ク利少キハ之ヲ捨テザル可ラス目下彼等ガ朝鮮ニテ僅ニ糊口スルノ利ハ小ニシテ彼等ガ一般ノ信用ヲ失シ公共ノ利益ヲ妨クルノ害ハ大ナリト云ハザル可



ラス苟モ外国ノ通商港ニ於テ自國ノ貿易ヲ妨害スル者ア
ルヲ祭見シタル以上ハ區々タル利害ヲ顧ミルニ暇アラサ
ルナリ

將又說ヲナス者アソノ商業ハ人々ノ隨意自由ニ任シ
苟モ他ヨリ之ニ干渉ス可ラカルモノナリ且器量勉強ニ依テ
ハ今日ノ貧者モ明日ハ富者トナルトアラソ然ルニ朝鮮貿
易ニ從事スル者ニ制限ヲ置キ財産ノ多少ニ因テ之
ヲ許否スルカ如キハ商業自然ノ祭達ヲ害セント一應
ノ理論ハ實ニ然リト雖モ以上論シ来リタルカ如ク現
時ノ実況ヲ觀察スルニ無謀無産者ハ貿易ヲ補助セ
サルノミナラス之ヲ妨害スルモノナルニ付此派ニ放任セハ却テ
商業ノ祭達ヲ害スルカ如キ傾向アルヲ奈何セン且又朝鮮
在留ノ商估ヲシテ各自銘々ノ勝手ニ任シ毫モ其ハ助

在朝鮮國元山港 日本領事館

ノ取締ナキニ於テハ日韓貿易ハ漸々衰退ニ赴リカ如キ
有様アルヲ奈何セン故ニ一時ノ取締トシテ制限法ヲ實
行スルハ貿易保護ノ点ヨリ已ムヲ得ナルナリ
之ヲ要スルニ目下朝鮮ノ貿易ハ支那商ナル強敵アリテ輒
スレバ我商ハ之ニ壓倒セラレントスル傾アルヨリ其回復策ニ
付テハ官民ノ計畫憂慮スル所ナリ故ニ將來朝鮮人ノ信用
ヲ得ルヲ勉メ且商業上從來ノ組織ヲ改メ有カノ商
估結合シテ益奮祭勉勵シ以テ國利民福ヲ増進セサル
可ラロルノ秋ナルニ今日ノ低ニテ次第ニ我國ノ下等々人朝鮮
へ渡航シ貿易ニ從事スルニ於テハ信用モ得ルヲ能ハズ結
合モ好果ヲ奏セスシテ益支那商ノ為メニ制セラルノ懸念
ナキニアラサレハ相當ノ制限法ヲ設ケ之ヲ豫防スルハ日韓
貿易上ニ於テ得策ナルベシト云フニ在リ尤モ右ノ制限ヲ

實行スルニ付テ仁川元山京城ニ於テハ丸程ノ困難ヲ見
カレベシト雖モ釜山ニ於テハ種々ノ不都合ヲ感スルコトナラン
何トナレハ同地ハ貿易場ト云ハソヨリ寧ロ我國ノ殖民地ト
モ云フヘキ有様ニテ魚産魚力ノ者最モ多ク現在々留シ且
將來渡来シ制限第一項ノ資格ニ適セラル者十中ノ八九
ナラント思ハレハナリ若シ果シテ制限法ヲ實施スルニ付テ
種々様々ノ差支ヲ生シ到底好結果ヲ得ルノ状況アルニ
於テハ釜山ノミハ右ノ制限外トスルモ亦不得已ナリ若シ幸
ニ此議ヲ採用セラル、ニ於テハ外務省中二人又ハ三人ノ委
員ヲ設ケ其規則ヲ調査起草セシメテ之ヲ布望
ス

明治廿二年二月

在朝鮮國元山港

日本領事館